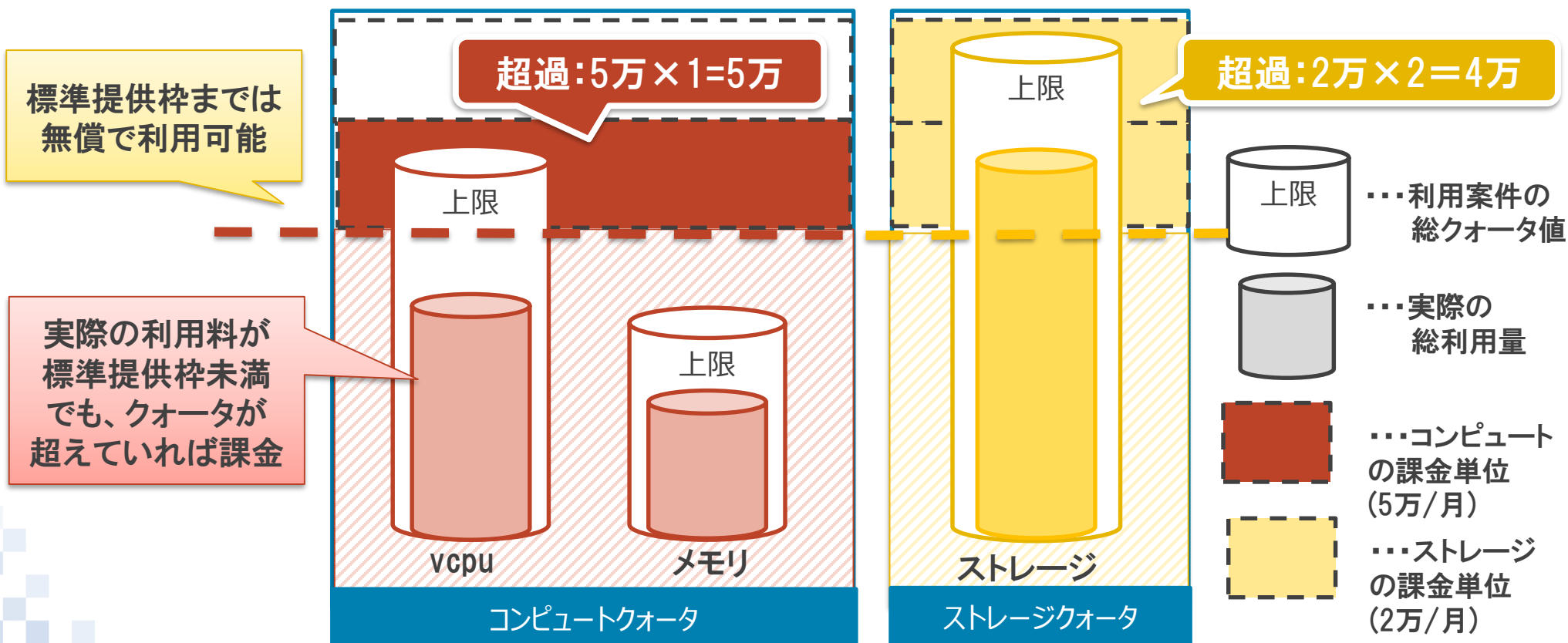


# 1. プライベートクラウド(OpenStack) 料金概念図

情報種別 : G外秘  
会社名 : 株式会社NTTデータ  
情報所有者 : システム技術本部

リソース上限量に応じた段階的・月額制の料金設定です。  
一定のクォータ量(=標準提供枠)までは無償でご利用いただけます。

下記図では、vcpuとストレージのクォータ(リソース上限)値が、標準提供枠を超過しているため  
[赤い点線枠] および [黄色い点線枠] の分の課金が発生します。(下記図では9万/月の課金が発生)



## 2. プライベートクラウド(OpenStack) 利用料金

情報種別 : G外秘  
会社名 : 株式会社NTTデータ  
情報所有者 : システム技術本部

### 《料金設定》

標準提供枠からの超過分に対し以下の単位で課金されます

コンピュータクォータ[vcpu/メモリ]

20コア/メモリ50GB毎に **50,000円/月**

ストレージクォータ[ストレージ]

1TB毎に **20,000円/月**

### 《標準提供枠》

総クォータ利用量が下記を超えない場合、無償でご利用いただけます。

クォータ種別	クォータ	標準提供枠
コンピュータクォータ	vcpu	<b>40コア</b>
	メモリ	<b>100GB</b>
ストレージクォータ	ストレージ	<b>2TB</b>

これまでご利用の案件のうち**80%以上が無償**となる見込みです。

### 3. プライベートクラウド(OpenStack) 課金ルール

リソース上限量(クォータ(※1))と標準提供枠を軸とするOpenStack の課金ルールを以下に示します。

#### 《課金ルール》

- 料金計算対象のクォータは[vcpu/メモリ/ストレージ]の3つです。
- ご利用料金は各テナントに設定されたクォータの値を基に計算されます。(※2)
  - OpenStackテナントの追加、リソースの上限が変更されたタイミングで、その利用量に応じて課金が発生します。
- クォータの種別毎に料金を計算いたします。(⇒参考1-4.参照)

#### ○クォータの種別

[vcpu/メモリ]の組み合わせ ⇒ コンピュートクォータ

[ストレージ] ⇒ ストレージクォータ

- クォータの種別毎に標準提供枠を設定し、標準提供枠までは無償でご利用いただけます。(⇒参考1-2.参照)
- 標準提供枠を超えた場合の料金は、段階的な料金設定により料金が計算されます。
- コンピュートクォータは、[vcpu/メモリ]どちらか一方でも標準提供枠を超えると有償となります。両方が課金対象となった場合、より超過リソース量が多い方を基準に料金を計算いたします。(⇒参考1-5.参照)
- 複数のテナントをご利用の場合、全テナントのクォータの合計値(=総クォータ利用量)から料金を計算します。同一案件で開発ダッシュボードを複数ご利用の場合、全開発ダッシュボードを対象に総クォータ利用量を計算します。(⇒参考1-6.参照)
- その他、統合開発クラウド担当にて必要性を認めた場合、課金する可能性があります。

※1 : 各OpenStackテナントで利用できるリソース上限値です。払いだされた制限値(クォータ)の範囲内でリソースの利用が可能となります。

**実際のリソース利用値とは異なりますのでご注意ください。**クォータにはボリューム数などがありますが、課金対象になるのは上記の3種です。

※2 : 仮想マシンの台数、仮想マシン毎のリソース配分量、仮想マシン毎の稼働時間は計算に含まれません。

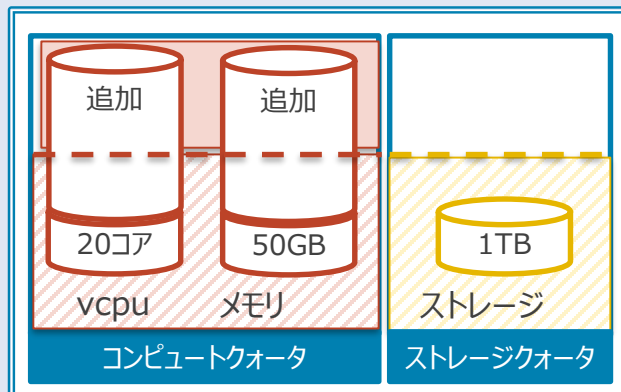
## 4. クォータの課金パターン

料金は実際のリソース利用量ではなくクォータ(リソース上限値)を基に算出いたします。クォータ種別毎に標準提供枠の超過分に対し課金します。

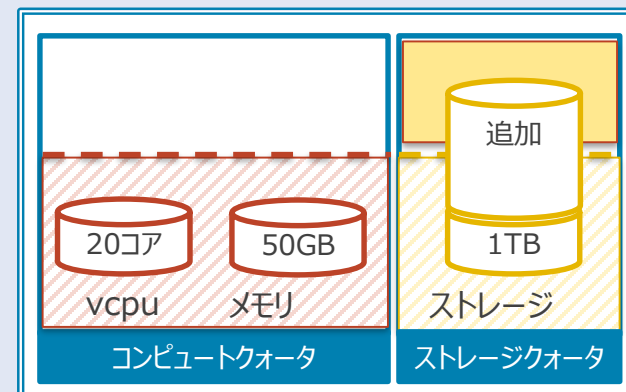
### 《片方の種別のみ課金となるパターン》

・左の例：コンピュータクォータのみ標準提供枠を超過しているため、OpenStack の利用料金はコンピュータクォータの分の課金分のみです。

・右の例：ストレージクォータのみ標準提供枠を超過しているため、OpenStack の利用料金はストレージクォータの分の課金分のみです。



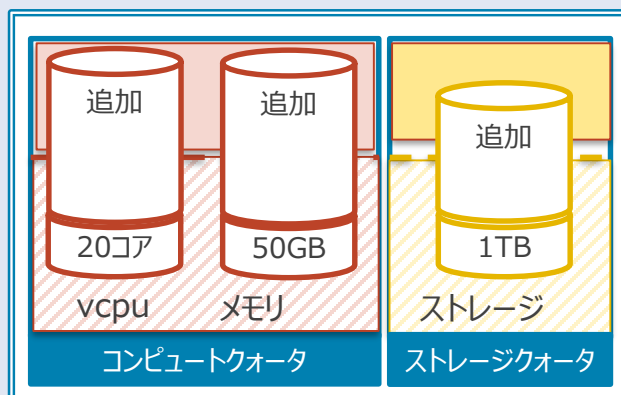
《コンピュータクォータのみ標準提供枠を超過》



《ストレージクォータのみ標準提供枠を超過》

### 《両方の種別が課金となるパターン》

両種別のクォータが標準提供枠を超えた為、OpenStack の利用料金はコンピュータクォータとストレージクォータの課金の合算となります。



《両種別のクォータが標準提供枠を超過》

補足：

「vcpu20コア/メモリ50GB/ストレージ1TB」を利用開始時の基本のクォータとしています。

凡例

課金範囲  
(コンピュータクォータ)

課金範囲  
(ストレージクォータ)

標準提供枠  
(コンピュータクォータ)

標準提供枠  
(ストレージクォータ)

## 5. コンピュートクォータの課金

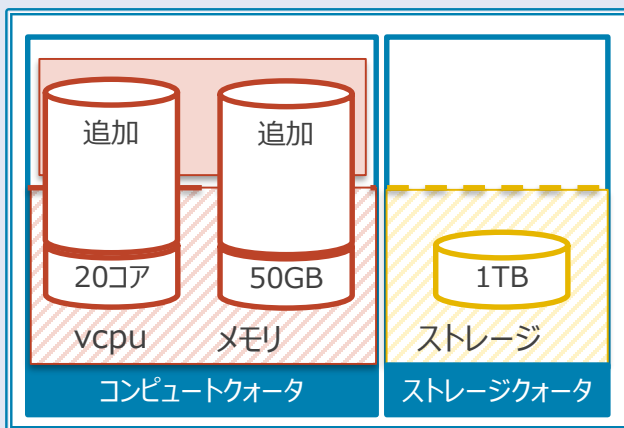
vcpu/メモリどちらか一方でも標準提供枠を超えると、課金が発生します。  
両方が課金対象の場合、超過が大きいほうに基づき料金を計算いたします。

実際の試算例は参考1-7. の例1を参照ください。

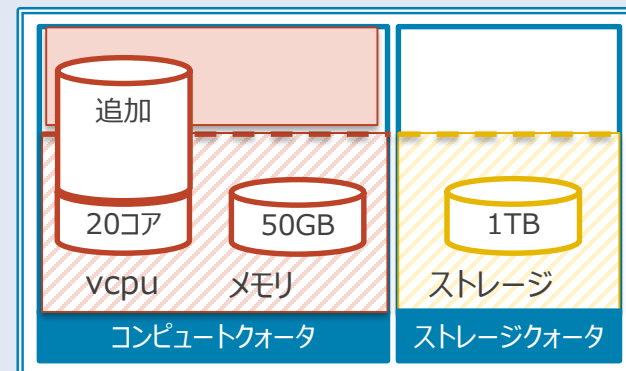
### 《コンピュートクォータの課金パターン》

下記の3パターンは全て課金となります。

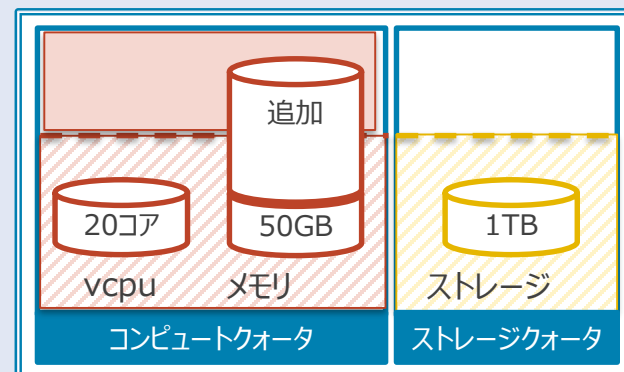
#### 《パターン1：vcpu/メモリ両方が標準提供枠を超過》



#### 《パターン2：vcpuのみ標準提供枠を超過》



#### 《パターン3：メモリのみ標準提供枠を超過》



凡例

標準提供枠  
(コンピュートクォータ)

標準提供枠  
(ストレージクォータ)

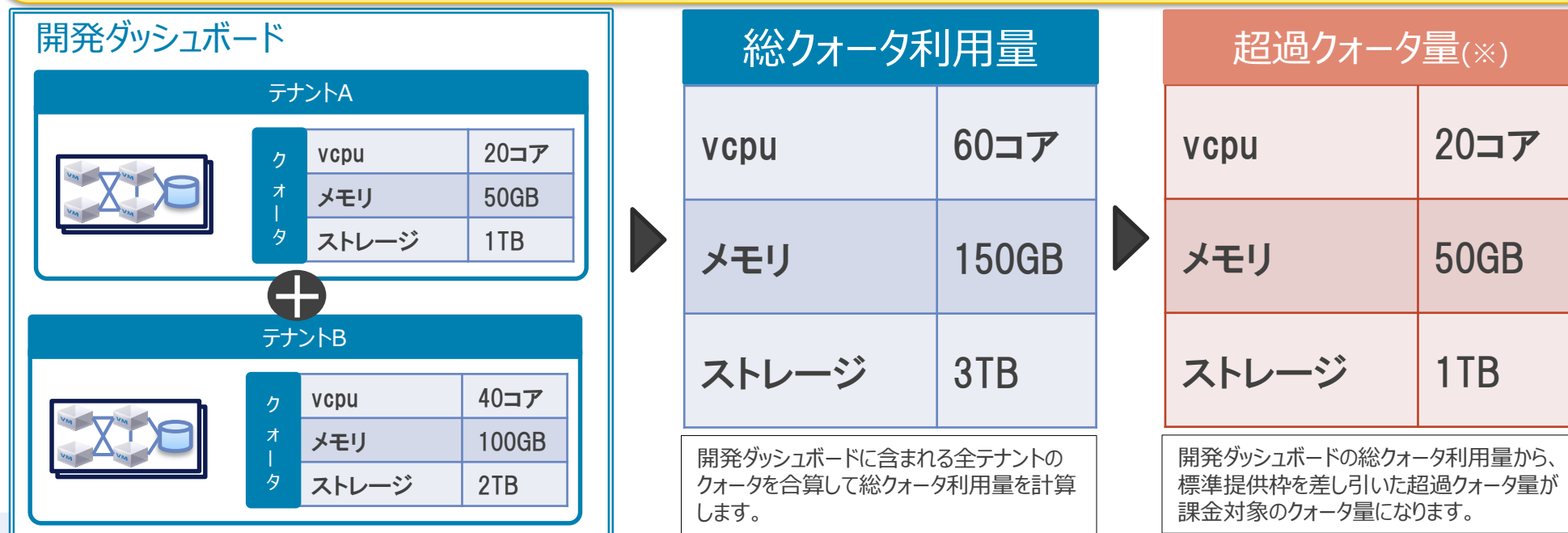
課金範囲  
(コンピュートクォータ)

課金範囲  
(ストレージクォータ)

## 6. クォータ量の算出単位について

課金は「案件」単位に実施します。同一案件とみなした中のクォータの合計値を「案件におけるクォータの総利用量(総クォータ利用量)」として料金を計算します。

- 開発ダッシュボード内の複数のOpenStackテナント、NCIT版OpenStackテナントは全て同一案件のものとし、クォータ値を合算します。
- 1案件1開発ダッシュボードの利用を原則とします。1案件で開発ダッシュボードを複数利用している場合は、全ての開発ダッシュボードに属するOpenStackテナントのクォータ値を合算します。



※：標準提供枠[40コア/100GB/2TB]の場合の例となります。

注意1：スナップショットを取得すると、ストレージクォータが消費されます。 注意2：クォータ利用量を下げたい場合、実際のクォータ利用値を下げる必要があります。また、利用値を下げるには仮想マシンの削除が必要です。仮想マシン停止では利用値は下がりにませんのでご注意ください

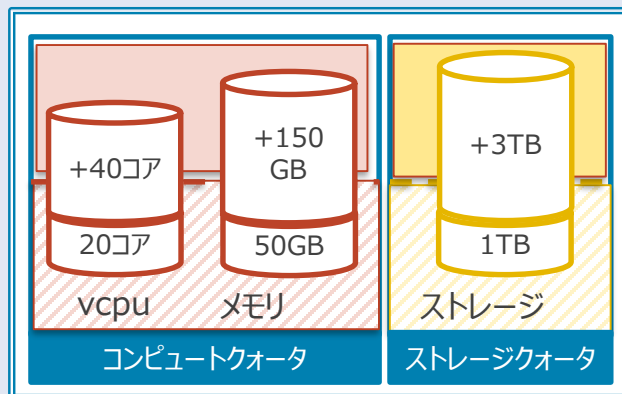
# 7. プライベートクラウド(OpenStack) 料金試算例(※)

情報種別 : G外秘  
会社名 : 株式会社NTTデータ  
情報所有者 : システム技術本部

例1 : 1つのテナントにリソース追加

**140,000円/月**

- コンピュータクォータ  
超過分 : vcpu < メモリ  
→メモリの金額で課金  
→5万x2 = 100,000円
- ストレージクォータ  
→2万x2 = 40,000円



総クォータ利用量

vcpu	60コア
メモリ	200GB
ストレージ	4TB

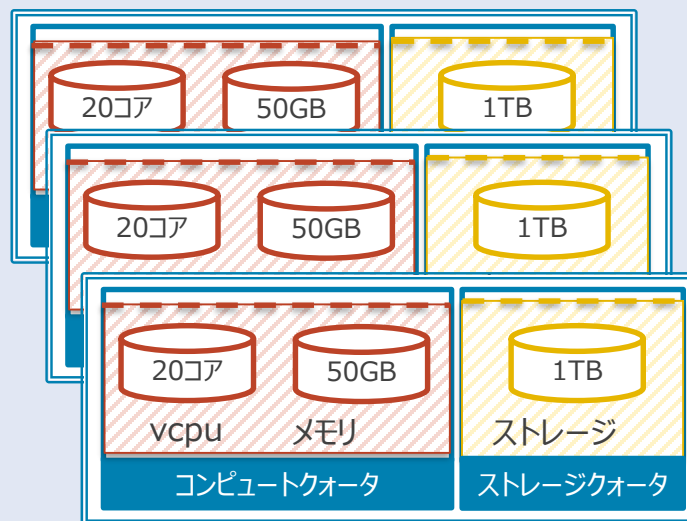
超過クォータ量

vcpu	20コア
メモリ	100GB
ストレージ	2TB

例2 : 標準提供枠内のクォータを複数利用

**70,000円/月**

- コンピュータクォータ  
超過分 : vcpu = メモリ  
→5万x1 = 50,000円
- ストレージクォータ  
→2万x1 = 20,000円



総クォータ利用量

vcpu	60コア
メモリ	150GB
ストレージ	3TB

超過クォータ量

vcpu	20コア
メモリ	50GB
ストレージ	1TB

※ : 標準提供枠[40コア/100GB/2TB]の場合で料金例となります。